

車載 AI エージェントの覇権争い

～Apple×Grok／Google×Gemini の再編と真の狙い～

— 講師 — 名古屋大学 未来社会創造機構 客員教授 野辺 継男 氏

日 時 2026 年 2 月 6 日 (金) 午後 4 時～6 時
受講方法 会場受講／ライブ配信／アーカイブ配信(2 週間、何度でもご視聴可)
会 場 SSK セミナールーム 東京都港区西新橋2-6-2 ザイマックス西新橋ビル4F

[重点講義内容]

EV のゾーン型 SDV 化、クラウド連携、そして半導体の指数的進化を背景に、車載コンピュータは人間の認知能力を超える領域へと近づきつつある。

本講演では、生成 AI が LLM から VLM、さらに VLA へ発展する中で、Grok や Gemini などのエッジ AI が車載コンピュータのフロント・エンドとして果たす役割を整理し、Apple CarPlay・Google Android の戦略的变化を踏まえ、日本の自動車メーカーの戦略課題と今後の開発に対する考え方を提示する。

1. SDV・半導体・生成 AI がもたらす地殻変動

- (1)ゾーン型 SDV とクラウド連携が必然となる構造変化
- (2)車載コンピュータの指数成長と AI 統合アーキテクチャ
- (3)LLM→VLM→VLA 進化が自動車開発に与える影響

2. 車載 AI エージェントの本質とフロントエンド化

- (1)エッジ AI が車載コンピュータの“フロントエンド”となる意味
- (2)運転支援・自動運転の知覚 ～判断を AI で再構築する流れ
- (3)車両制御・安全性向上を支えるリアルタイム AI 統合

3. Apple×Grok／Google×Gemini の再編と自動車産業

- (1)Grok の車載フロントエンド化と CarPlay 連携強化の可能性
- (2)Gemini と Android Auto/Automotive の統合深化の方向性
- (3)日本 OEM の追従リスクと求められるデジタル基盤改革

4. 日本メーカーに必要な SDV・AI 統合戦略

- (1)Zonal E/E 刷新と AI エージェント実装に向けた優先施策
- (2)クラウド連携・データ活用・OTA の戦略的位置づけ
- (3)パートナー選定とエコシステム構築の再設計指針

5. 質疑応答／名刺交換

PROFILE 野辺 継男 (のべ つぐお) 氏

NEC にて PC やビデオストリーミング・TV 会議等を開発し、退職後ソフトバンク子会社としてオンラインゲーム会社を設立。2004 年から日産にて EV を中心に IoT 化を推進し、2011 年 LEAF の IT/IoT 化で GSMA Award を受賞。2012 年からインテルにて CASE 全般を開発推進、2024 年に退職。並行して 2014 年以降名古屋大学で自動運転の調査研究に従事、現在に至る。IEEE 等で講演多数、政府委員歴任。2024 年末、中国で SDV に関する書籍(共著)を出版。早大理工学部応用物理学科卒、ハーバート大学院(MBA Alumni、PIRP Fellow)

